

施策No.	政策名	活力ある産業のまちづくり	主管課	商工観光課	主管課長名	鈴木 政俊
4-2	施策名	商工業の振興	関係課	地域開発課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	市内の事業者	①市内の従業者数		人	見込値	16,400	16,400	16,400	16,400	16,400
実績値					16,437					
					見込値					
					実績値					
					見込値					
					実績値					
目的		施策の意図	成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
		経営が安定し、経済活動が活発になっている。	①事業者数		件	目標値	1,950	1,930	1,900	1,870
実績値						2,184				
②ビジネスマッチング参加数				件	目標値	6	7	8	9	10
	実績値				4					
③新商品開発数(5カ年累計)			件	目標値	2	2	2	2	2	
				実績値	2					
④自治金融・振興金融・小規模事業者経営改善資金融資(マル経融資)件数			件	目標値	120	120	120	120	120	
				実績値	88					
⑤新規立地企業数(5カ年累計)			件	目標値	1	1	1	1	1	
				実績値	1					
成果指標設定の考え方	①事業者数は市内の経済状況を把握する。 ②③ビジネスマッチング参加数と新商品開発数は経済活動を把握する。 ④自治金融・振興金融・小規模事業者経営改善資金融資(マル経融資)件数は経営の安定性を把握する。 ⑤新規立地企業数(5カ年累計)は働く場の確保となる。									
成果指標の把握方法と算定式等	①事業者数は、統計調査より抽出 ②ビジネスマッチング参加数は立地企業支援事業補助金から把握 ③新商品開発数は相談件数から把握 ④自治金融・振興金融・小規模事業者経営改善資金融資(マル経融資)件数は実数値 ⑤新規立地企業数(5カ年累計)は実数値									

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がすべて向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 向上した成果が多かった	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 低下した成果が多かった	<input type="checkbox"/> 成果がすべて低下した	
背景・要因	①市内の事業者数はH26年度より28社減であり、ほぼ横ばいである。 ②ビジネスマッチング参加件数は横ばいである。 ③観光と連動したお土産品など、新商品開発の動きが見られるようになった。 ④自治金融等の件数は減少しており、経営の安定する事業者が増加傾向にあると見ることができる。 ⑤新規立地企業は横ばいである。		

2) 成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを上回った	<input checked="" type="checkbox"/> 目標値を上回ったものが多かった	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input type="checkbox"/> 目標値を下回ったものが多かった	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを下回った	
背景・要因	①市内の事業者数は目標値1,950件に対し実績値2,184件であり、目標値を上回った。 ②ビジネスマッチング件数は目標値6件に対し実績値4件であり、目標値を下回った。 ③新商品開発件数は目標値どおりの成果であった。 ④自治金融等の件数は目標値120件に対し実績値88件であり、目標値を上回った。 ⑤新規立地企業は目標値どおりの成果であった。		

3. 施策の成果実績に対しての総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対しての総括	今後の課題・方針
<p>・29年度はビジネスマッチング、雇用創出など企業活動の支援を中心に事業を実施した。</p> <p>・貢献度評価の視点から29年度を振り返ると、実績のあった事業は「企業誘致推進事業」と「桜川市雇用創造協議会支援事業」であった。</p> <p>・「企業誘致推進事業」では高森工業団地内に1件の誘致に成功し、新たな雇用の創出につながっている。</p> <p>・「桜川市雇用創造協議会支援事業」は国の受託事業として7月から事業を開始。雇用につながるセミナーを実施したり、年2回の就職相談会を実施し、20名の雇用を生み出すことができた。</p>	<p>・引き続き企業誘致に取り組み、雇用の確保を進めるとともに、ビジネスマッチング等により企業の販路拡大を支援する。</p> <p>・商店街も空き店舗が目につくようになっているが、店によっては地域資源を活かしたお土産づくりの動きも見られるようになり、市の推奨品「桜川百貨」を進めることにより、地域の活性化につなげていく。</p> <p>・地場産業である石材業が衰退し、後継者もいない状況となっている。石材関係のイベントや展示会への出展、新製品の開発等も行っているが、打開策が見えない状況である。</p>